

断線ペグチェッカー

概要

D70・ISM巻き取り工事における2重ジャンパ作業時において、ジャンパ線をマルチ結線する(余長処理や被覆を剥ぐ動作)際、皮むき器等に測定リード線を接続し、**被覆を剥ぐ動作を行うだけで断線ペグが正常に機能しているか否かを判定(故障を防止出来る)できます。**



- ・外形寸法
100 mm (高さ) × 61 mm (幅) × 18.5 mm (厚さ)
- ・本体重量
約100g (電池含む、テストリード含まず)

- ◎・・・明確に判定できる。
- △・・・判定が非常に困難。
- ×・・・判定ができない。

現行のチェックツールと本提案「断線ペグチェッカー」比較表

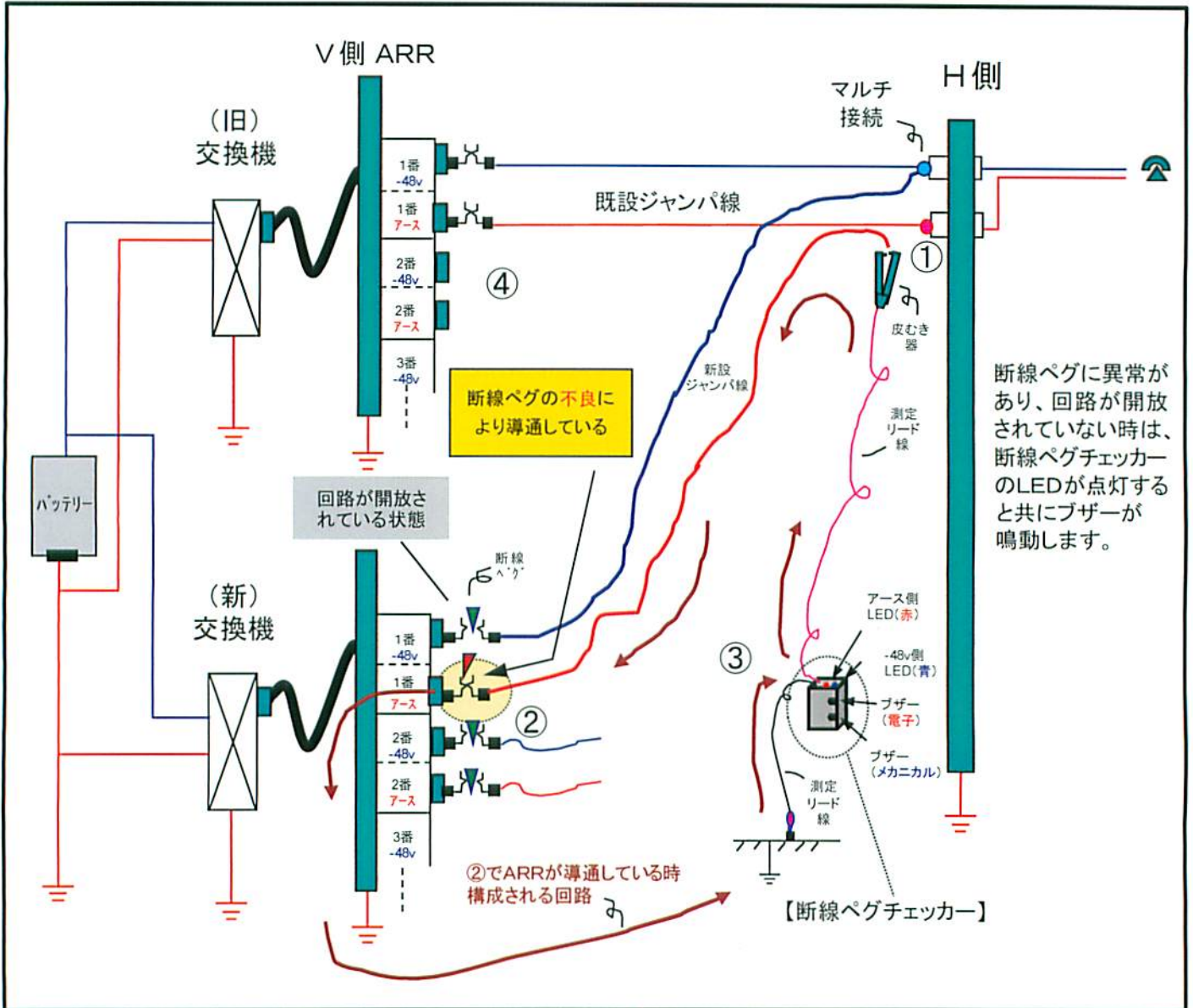
回線種別	ジャンパ線	現状(テストランプ等)	断線ペグチェッカー
アナログ回線	-48V側(V)	◎	◎
	アース側	×	◎
I回線	-48V側(V)	△ ※	◎
	アース側	×	◎

※・・・LEDテストランプは、ほんの僅かに点灯するだけであり見落とす可能性もあるので判定が難しい。

特長

- ・新設ジャンパ線がオープン状態でない場合(異常時)、-48V側またはアース側の各々の線ごとに、音色の異なるブザー音と、発光色の異なるLEDランプ(赤、青)の両方(聴覚と視覚)により異常が確認できます。
- ・ジャンパ線の余長処理(切断)、または被覆を剥ぐ作業の中でジャンパ線の状態が確認できるため、作業工程を増やす事はありません。

二重ジャンパー敷設時の【断線ペグチェッカー】の動作説明



二重ジャンパ線の敷設は、事前に新交換機V側のアレスタ(ARR)に断線ペグが挿入され、新設ジャンパをH側に付け線しても回路が開放されているため故障は発生しない。

しかし断線ペグの不良等により、②のように導通状態となっている場合、H側①において新設ジャンパをマルチ接続すると現用回線に影響を与えてしまう。

給電側(-48v)であれば断線ペグの有無(断線ペグが正しく挿入され、回路が開放されている正常性)をテストランプ等でチェックする事が出来るが、アース側については断線ペグの有無(正常性)を確認することは困難である。

本断線ペグチェッカーは①でジャンパ線をマルチ結線する作業(余長処理や外皮はぎ取り動作)の際、皮むき器等に測定リード線を接続し、皮むきの動作を行うだけで断線ペグが正常に機能しているか否かを判定(故障を防止出来る)できる。

給電側(-48v)、アース側の両方を確実に判定できる。